

多様な主体の強みを生かした包括的な介護福祉士等修学資金の創設

< 現行の修学資金等 >

- ・制度ごと、法人ごとにバラバラ
- ・法人の制度はあるが活用少ない
- ・学ぶ場、働く場(市町村や法人)の拘束が負担
- ・教材費の負担

※1つの制度では不足、使い勝手が悪い

< 新たな方法 >

- ・市町村は給付型で条件を課さず交通費等助成や
 応援金のような性質にできないか
- ・法人のものは法人独自のものは残しつつ
 学生が選択でき自己決定できる奨学金ができないか
- ・市民の高額介護給付費の端数寄付や
 応援基金の様な形で寄付をつのれないか
- ・介護人材育成応援商品？1円？10円？

日本介護福祉士
養成施設協会



介護福祉士等
修学資金保証制度



多様な学生

選択と自己決定を可能にし
産・官・学・民で連携しWell-beingな奨学金を

多様な教育

連携施設への実習派遣



教育の質の確保

教育

多様な制度

市町村の見直し



制度の持続性の確保

行政等

多様なメニュー

独自・連携奨学金



リーダーとなる人材の確保

社会福祉法人等

多様な応援

寄付文化の醸成



老後のあんしんの確保

住民

多様な介護人材参入促進、外国人材キャリア支援の強化

- まんじゅう型から富士山型
そして山脈型へ
- 国家試験パート合格の導入

職能団体である
介護福祉士会

介護福祉教育主体の
連携強化が必要

介護福祉士養成校

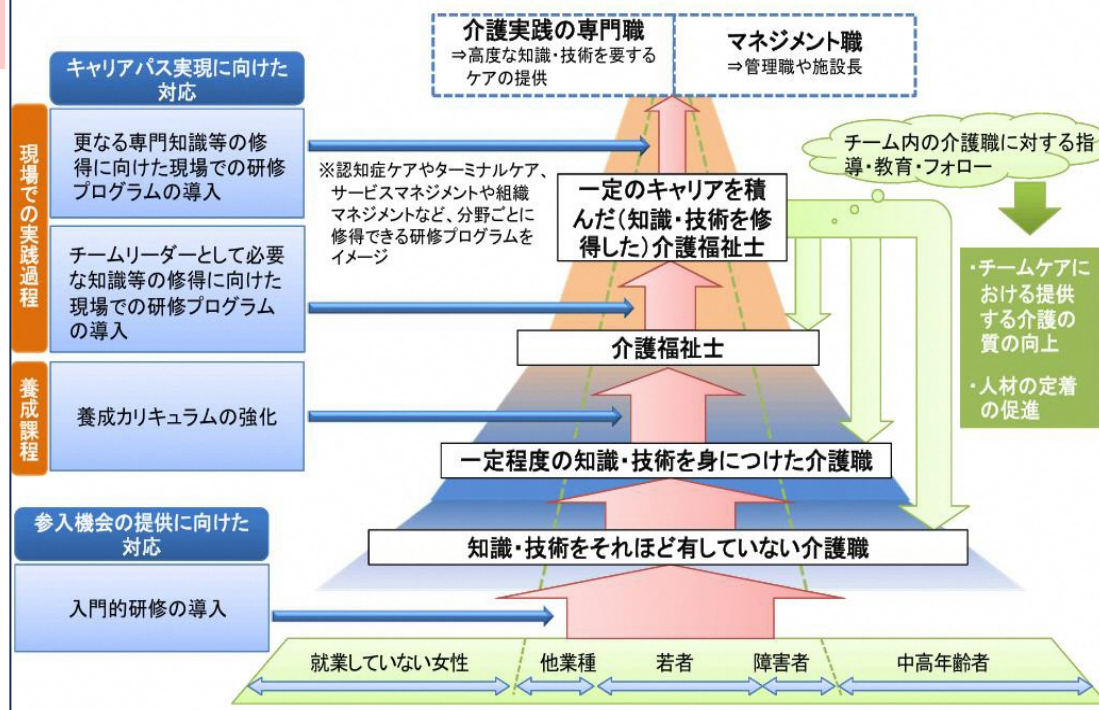
実務者養成施設

介護職員初任者研修

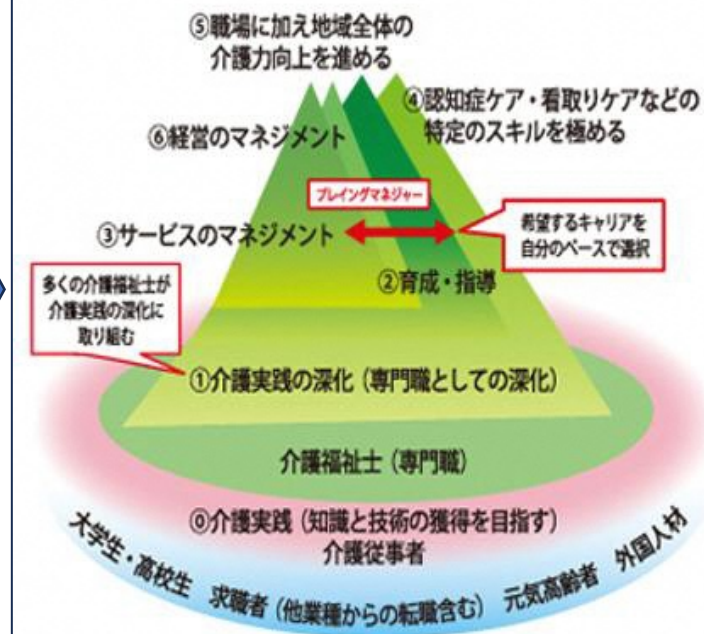
入門的研修

福祉系高校

介護人材のキャリアパス全体像（イメージ）



山脈型キャリアモデル



介護福祉教育関係者ネットワーク

情報交換・課題共有を通し

- ①多様な介護人材の参入促進
- ②介護福祉教育の質向上
(外国人教育含む)
- ③外国人を含む介護人材のキャリア支援(介護福祉士資格取得まで)
- ④国家試験合格率の向上

- ①介護サービスの質向上
- ②人材の確保・定着
- ③県民のWell-being

※介護福祉士国家試験合格率

		第36回	第37回
全国 (全ての受験者)	受験者数	74959	75387
	合格者数	61747	58992
	合格率	82.8	78.3
特定技能1号	受験者数	1950	4932
	合格者数	751	1643
	合格率	38.5	33.3
技能実習	受験者数	596	155
	合格者数	280	50
	合格率	47.0	32.3

		全体	留学生以外	留学生
全国 (養成校)	受験者数	6955	3868	3087
	合格者数	4638	3553	1085
	合格率	66.7	91.9	35.1
A校	受験者数	21	21	0
	合格者数	20	20	0
	合格率	95.2	95.2	0.0
B校	受験者数	18	15	3
	合格者数	14	13	1
	合格率	77.8	86.7	33.3
C校	受験者数	13	13	0
	合格者数	12	12	0
	合格率	92.3	92.3	0.0

県民への質の高いサービス提供には国家資格要!
養成校を含め全ての合格率アップが課題

<養成校合格率>

- ①低いのは外国人の割合が高いことによる
- ②日本人では多様な学生が増えている
- ③養成校入学者の減少により教員多忙

<国家試験受験ルート>

養成施設 福祉系高校
実務者研修 EPA

		全体	留学生以外	留学生
県外D校	受験者数	41	4	37
	合格者数	5	4	1
	合格率	12.2	100.0	2.7

市町村介護人材確保プラットフォーム支援事業

- 身近な市町村単位で介護人材の確保・定着へ向けた総合的な取組を推進するため、関係機関・団体との連携を図り、施策の検討、推進及び評価等を行うための協議会の設置を支援する
- 既存に協議体の活用は可能
ただし ①介護人材確保の担当者を事務分掌に位置付ける
②必ず構成メンバーに、介護福祉士を入れる

地域を基盤とした包括的介護人材確保システムイメージ図(案) 中島提出

